

# 大学と地域の共創による生物多様性保全

Osaka University and the Local Community Co-create Biodiversity Conservation

**研究代表者** 古屋秀隆(理学研究科 教授)

吉岡聡司(サステイナブルキャンパスオフィス 准教授)

**研究協力者**

[学内] 池内祥見(サステイナブルキャンパスオフィス 助教) 伊藤武志(SSI教授) 大久保規子(法学研究科 教授) 栗原佐智子(理学研究科 招へい研究員、大阪大学出版会)

鈴木隆仁(滋賀県立琵琶湖博物館 学芸技師) 武田浩平(社会技術共創研究センター(ELSI) 協働形成研究部門 特任研究員)

中島大暁(理学研究科 博士後期課程(古屋研)) 松本馨(理学研究科 招へい研究員、大阪府立刀根山(とねやま) 高校教諭)

[学外] 木下修一(名誉教授・生命機能研究科) 倉光成紀(名誉教授・理学研究科) 升方久夫(名誉教授・理学研究科)

**共同研究機関・連携機関**

大阪大学生物研究会 豊中市アジェンダ21自然部会(NPO法人) 大阪府立刀根山高校生物エコ部 池田・人と自然の会 刀根山と待兼山の森を守り育てる会(以下で刀根森会) 待兼山博物同好会 阪大竹の会コラボ

## 1. プロジェクト概要

本学の主要キャンパスには、都市に残された貴重な自然資源としての側面もあります。豊中キャンパスは待兼山や中山池はもちろんのこと、その他の場所にも希少な動植物が生息し、豊中市の保全配慮地区にも指定されていて、「大阪府レッドリスト2014」で準絶滅危惧種とされたヒメボタルの生息も確認されています。市民や行政の注目も高まっているこうした自然の保全について、SDGsの視点も含め、企業のCSRにも働きかけて協力を得つつ、学生教職員、地域住民や諸団体と共に生物多様性の保全と教育研究、キャンパス整備との調整に統合的に取り組んでいます。

## 2. 2021年の取組と成果

### ① 絶滅危惧種等の希少生物保護

維持管理されず放置された緑地では、ササやセイタカアワダチソウ等、繁殖力の強い植物ばかりが優占してしまうことがよく起こります。除草や間伐は間接的に希少種の保護につながる場面が多く、また除草や間



キンランの群落(環境省レッドデータ:絶滅危惧II類)、松本馨撮影

伐を通じて希少種を発見することが少なからずあります。2021年は下記の活動を実施しました。

- ◆中山池の刀根山側遊歩道でのササ刈り(刀根森会・松本・中島、3/14)
- ◆待兼山周辺での多数の希少植物確認(キンラン・ギンラン・ササバギンラン・コ克蘭・ギンリョウソウ・ヤマツツジ)(中島・松本、4~5月)
- ◆サジガクビソウの群落にマーキング(松本、9月)
- ◆待兼山修学館裏の工事予定エリアからのシュンラン移植保護(松本・中島、10/2)
- ◆タケヤブ間伐(グラウンド北側、阪大タケの会コラボ・吉岡、12/11)
- ◆クズやセイタカアワダチソウ等の除草作業(刀根森会・松本・中島、12/18)

### ② 裾野の拡大

昨年から開講した、フィールドワークによる体験や体感を重視する全学向けの授業「阪大の生きものに生物多様性を学ぶ」(マチカネゼミ)では、昨年はコロナ禍によりリモート中心の講義になってしまいましたが、2021年は5月にヒメボタルの発光観察を授業の一環として実施することができました(古屋・松本・中島)。

また、昨年に本プロジェクトとともにサステイナブルキャンパス推進協議会主催の「サステイナブルキャンパス賞(学生活動部門)」を受賞した岐阜大学環境サークルG-amet(ジャメット)からお申し出を頂き、リモートによる意見交換を12/8に実施して(池内・吉岡)活動を継続し発展させるための意見交換を行いました。さらに12/18にはG-amet主催の学生交流会(リモート)に、中島と生物研究会が参加しました。

春から秋にかけて、ウェブページの整備(中島・大久保・伊藤ほか)とFacebookでの活動発信(中島・栗原)を行い、多くの写真等リポートを掲載しましたので、これを活動の裾野拡大へ活用していきたいと考

## 地域社会の持続可能性を向上させる ネットワークの構築へ

えています。

### ●プロジェクト全体像

<https://www.ssi.osaka-u.ac.jp/activity/joint/biodiversityproject/>

### ●野鳥やその他生物の紹介

<http://tiger.law.osaka-u.ac.jp/biodiversity>

### ●随時活動報告

<https://www.facebook.com/handai.biodiversity>

なお希少生物について場所等の情報を付して発表することは、時として盗掘や過剰な観察等で周辺環境の破壊を招く危険性、つまり、希少生物の保護と相反する場合がありますので、注意が必要です。

### ③フィールドでの調査や研究

下記の通りほぼ昨年からの継続調査等を実施しました。

◆中山池および乳母谷池にて水生生物調査（8月、刀根山高校生物エコ部・大阪大学生物研究会・中島）；中山池にイトトリゲモ（環境省レッドリスト準絶滅危惧種）、シャジクモ（同絶滅危惧種II類）、ミズユキノシタ（減少種、豊中市内ではここだけで確認）を確認。乳母谷池でスジエビ・シマヒレヨシノボリ（同準絶滅危惧種）を確認しました。

◆待兼山でのホンDIGツネ確認；希少生物保護の活動に関連して8～10月におそらく一家族と思われる複数頭のキツネに遭遇しました（中島）。大阪市立自然史博物館に対応を照会し「大阪府では数少ないキツネの生息地で、市街地で暮らしている珍しいエリアなので、巣穴に近づき過ぎないように留意して自動撮影装置による調査を期待したい。」との回答を得ています（松本）。

◆中山池、待兼池、乳母谷池での毎月プランクトンサンプリング調査（鈴木、開始は2020.12～）

◆ヒメボタルの幼虫トラップ調査（刀根山高校生物エコ部・松本・中島、11月）；新調査エリア（留学生会館南側草地）に100個、従来調査エリアに25個設置し、11/13に回収した結果、新調査エリアでは0匹、従来調査エリ

アでは7匹の幼虫を捕獲しました。

このように貴重なデータを多く得ていますが、データのまとめや、論文投稿などの発信に十分に繋げることができず、とくにマンパワーについて課題があります。

### 3. プロジェクトの今後

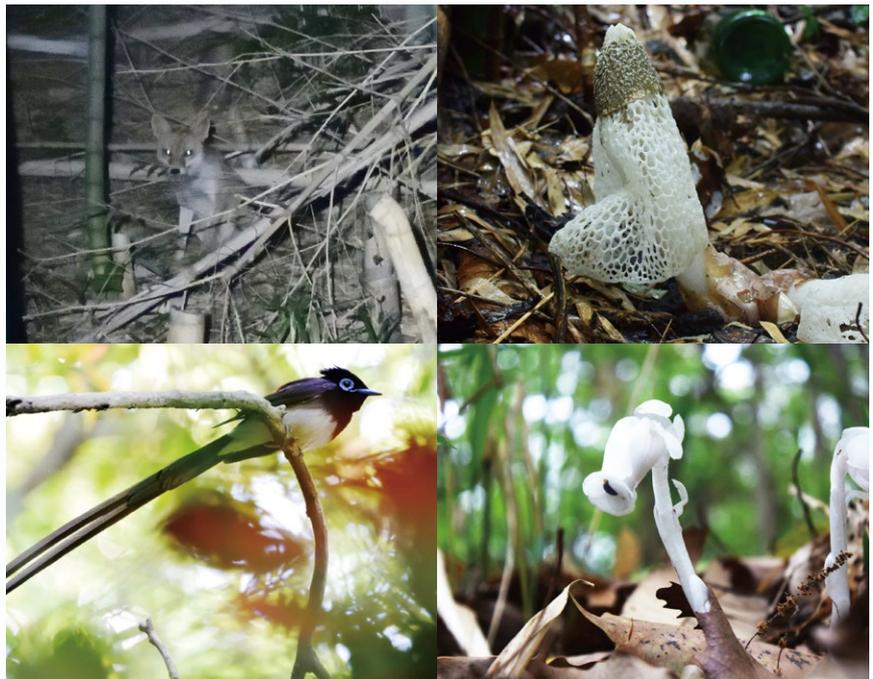
下記は昨年もお示したものですが、2021年もコロナ禍により十分には実施できませんでした。引き続きこのような活動を実施していきたいと考えています。

#### ①地域・学内の多様な主体の連携・協働による 希少種保護と外来種対策モデルの構築

#### ②全学向け授業の充実と企業等への はたらきかけによる裾野の拡大

#### ③継続的な調査研究と情報発信

活動を通して、生物多様性やSDGsに対する学生や市民の関心は高いものの、一方で具体的に何をすれば貢献できるのかよく判らないといった意見もあるようにみえます。引き続き、生物多様性を守り育てる活動を楽しみながら行うことによって、仲間を増やしつつ、地域社会の持続可能性を向上させるネットワークへと発展させていくことを目指していきます。



（左上）ホンDIGツネ、（右上）キノガサタケ、（左下）サンコウチョウ、（右下）ギンリョウソウ、全て中島大暁撮影。